



発行責任者 亀岡市立病院広報委員会

〒621-8585

京都府亀岡市篠町篠野田1-1

TEL 0771-25-7313

FAX 0771-25-7312

<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/>

病院理念

- 急性期医療を中心とした適切かつ良質な医療を提供します。
- 患者さまの権利を尊重し、理解と納得に基づいた患者さま中心の医療を行います。
- 地域医療機関と連携し、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み地域医療の向上に貢献します。
- 公共性と経済性を考慮し、市民の理解と信頼を得られる透明性のある病院運営を行います。

CONTENTS

ごあいさつ	1
新任医師のご紹介	2
その他新任職員のご紹介	3
外科(呼吸器)外来開設のおしらせ	3
地域連携室のご案内	4
糖尿病教室からのお知らせ	5
トピックス	6
看護週間イベント開催報告	
病院職員紹介	6
地域連携医のご紹介	7
石崎医院・吉岡整形外科医院	
編集後記	8
広報誌読者からのご意見等募集案内	8

ごあいさつ

新緑の緑が目優しい季節になりました。新しい年度が始まり、はや1ヶ月が過ぎましたが、皆様におかれましてはますますご清祥のことと存じます。今春は2年に一度の診療報酬改定の年であり、しかも消費増税も重なったことから、病院経営に携わる方々においては、その対策には例年にないご苦労が発生したのではないのでしょうか。

さて当院は、本年6月にて開院10年の節目を迎えようとしています。この10年間は、幾多の問題に直面しつつも地域に根付く医療の実践を念頭に、日々の診療にあたって参りました。そして次の10年の課題として、病院理念に基づく良質な急性期医療の安定した提供を目標としておりました。しかしながら、時代の流れは思うに任せません。本年3月末に循環器内科医1名の異動と消化器内視鏡専門医1名の離職が発生しました。不本意ながらその後任を確保することが出来ず、内科医は実質2名減員です。更に堅持してきた7対1急性期医療体制も10対1に変更せざるを得なくなり、病院自体のアクティビティの低下は否めない状況です。しかしながら院長他3名の内科常勤医の奮闘と、外来・救急医療を支える非常勤医師および外科系医師の協力により、従来レベルの診療はなんとか堅持するべく日々努力しております。本年度は新しい公立病院改革プランの策定に取り組む年度でもあります。一段と激しい経営努力と医療圏の構築の考えに基づいた病院間のネットワーク作りが求められる事でしょう。このような状況を鑑み、当院も今後のあるべき姿の検討を進めるため昨年度から院内の組織改革を進めています。ネットワークの構築または再編は一筋縄には行かない課題ではありますが、日本のモデルケースを目指して、地域の諸施設の皆様ともども協力・協力して参りたいと思います。



亀岡市立病院 医療管理監 天池 寿

新任医師紹介

本年2月末日付けで、中村整形外科医長が退職したことに伴い、3月から新たに1名の医師が入職いたしましたので、ご紹介させていただきます。なお、内容は①名前②年齢③出身④得意とする診療内容⑤趣味など⑥皆さまへのメッセージです。

整形外科



- ①名 前 …………… 市丸 宏三 (いちまる こうぞう)
- ②年 齢 …………… 36歳
- ③出 身 …………… 京都府
- ④得意とする診療内容 …… 整形外科(手外科、関節リウマチ)、漢方医学
- ⑤趣味など …………… スポーツ(過去に野球、バドミントン、テニス、現在はマラソン)、自然観察(バードウォッチング、森林インストラクター)、音楽鑑賞(ヴァイオリン、クラシック)、天体観測、写真など

⑥皆さまへのメッセージ

このたび3月から整形外科に勤務することになった市丸宏三です。

亀岡は、僕が洛西ニュータウンで生まれ育ち、研修医で洛西を出るまで、かかわりの深い場所でした。僕が幼少の頃、亀岡は里山が残っており、川やため池、山林でよく遊び、旧山陰本線(現在の嵯峨野観光線)の汽車から保津川を眺めたものでした。高校生、医学生の際は、自転車で国道9号線の老ノ坂峠を何度も突破し、天体観測や野鳥観察をしました。車の免許をとってからは、亀岡を起点に行動範囲が拡大しました。医師になり勤務地が京都、滋賀、大阪、兵庫と転々とし亀岡からは遠ざかっていましたが、大学から亀岡市立病院の異動を伝えられた時、やはり亀岡には縁があるのだと実感しました。

現在は、自分なりに仕事と育児、趣味を両立できるよう努力していますが、今後も一般的な整形外科の臨床経験を積みつつ手外科、関節リウマチのほか、スポーツ、音楽の方向でも趣味性を生かすことを考えてい

ます。そのためには自分もスポーツに励み、学生時代から興味がある漢方医学に対しても、医学の東西を問わず経験を積みたいと思います。

今後もこの病院で自分ができることを考え、がんばっていく所存ですのでよろしくお願いします。



その他新任職員

先に紹介した医師の他にも、看護師、事務職員などを新たな仲間として迎えました。今回採用のメンバーは、他の医療機関で十分に経験を積んだ者、病院で働くことが初めての者など様々ではありますが、一日も早く各々の仕事に慣れ、皆さまのお役に立てるよう努めて参りますので、今後ともよろしくお願ひします。



外科(呼吸器)外来開設のお知らせ

4月から京都大学呼吸器外科より非常勤医師を招聘し、下記のとおり外科(呼吸器)外来を開設しました。

<医師紹介> 担当医：ゆたか 豊 ようじろう 洋次郎
主な取得資格：日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医
日本呼吸器学会専門医
日本外科学会専門医
日本呼吸器内視鏡学会専門医

<診察日、内容> 診察日：毎週木曜日
診察内容：①胸(肺)の疾患で手術療法の適否についての相談
②胸(肺)の疾患による手術を受けられた後の
継続治療を含めた診療
③咳が慢性的に続く等の症状に対する検査及び診療

地域連携室のご案内

地域連携室では、地域の医療機関や福祉機関と連携しながら、患者様が安心して診療を受けていただけるように連絡、調整しています。

主な役割は、当院へご紹介いただいた患者様の対応と、受診いただいたのちの対応に分かれます。ご紹介いただく患者様については、診察、検査や入院の予約受付および院内調整を行っています。受診後には、紹介元医療機関へ主治医からの病状報告を行ったり、病状によって紹介元医療機関を受診いただくための調整を行います。特に、当院にない専門的な診療が必要な場合には、該当する医療機関の受診予約を行っています。

また、当院では、病状が安定されている患者様に、かかりつけ医（患者様の健康状態や症状等を把握し健康管理を行っていただいている地域の医院、診療所）で継続治療をお受けいただくことをお勧めしています。かかりつけ医で治療される間に、精密検査や入院治療が必要になったときには当院へご紹介いただくことで、患者様にとって効率的、効果的な治療を行うことができます。

患者様やご家族様が療養上抱えておられるお悩みや相談については、必要な支援をさせていただいております。具体的には、入院、外来を問わず医療、介護の継続が図れ、安心して在宅で過ごしていただけるよう、院内外の調整を行っています。特に、退院前には患者様やご家族様と一緒に院内の医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等と在宅サービスを担うケアマネジャー、訪問看護師等にて話し合う機会（カンファレンス）を開いています。

地域連携室の職員は、室長（病院長）をはじめ看護師、医療ソーシャルワーカー及び事務職員です。患者様のお力になれるように、日々心掛けておりますのでよろしく願いいたします。



介護相談などの面談（外来にて）



退院支援カンファレンス（病棟にて）

糖尿病教室からのお知らせ

＝糖尿病教室予定のお知らせ＝

5月以降の糖尿病教室の予定は表の通りですが、詳細は病院内に掲示しています。ご興味のある方はどなたでもお気軽にご参加ください。

日程	担当
5月	臨床検査技師
6月	薬剤師
7月	管理栄養士
8月	看護師
9月	理学療法士



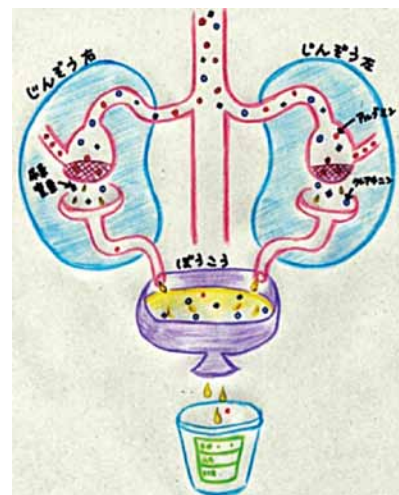
糖尿病教室の様子(4月)

尿中アルブミンについて

糖尿病の尿検査と聞くと、尿中の糖分を検査する印象が強いため、血糖値やヘモグロビンA1cを毎月測定している方にとって尿検査は必要ないのでは・・・と思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか？実はそうではありません。そもそも尿は腎臓で作られます。糖尿病の3大合併症のひとつには、糖尿病腎症があり、悪化していくと腎臓の機能が低下してしまい人工透析治療が必要になる場合があります。日本では1998年以降、あらたに透析導入となる原因疾患の第一位は糖尿病腎症となっています。

糖尿病腎症の病期分類(病気の進み具合)は下表のように考えられ、尿中アルブミンの量が腎症を知る目安として利用されています。

(基準値は30 mg/g・Cr未満)



糖尿病腎症の進行	尿試験紙 タンパク定性	尿中アルブミン (mg/g・Cr)	eGFR (ml/分/1.73m ²)
第1期(腎症前期)	(-)	30未満	30以上
第2期(早期腎症期)	(-)～(±)	30～299	30以上
第3期(顕性腎症期)	(+)	300以上	30以上
第4期(腎不全期)	問わない	問わない	30未満
第5期(透析療法期)	透析得療法中		

Point of no return

(2013年12月日本糖尿病学会 糖尿病性腎症合同委員会より抜粋 一部改訂)

健康診断などで見かける尿試験紙を用いた尿タンパク検査では「陽性」を示した段階で第3期(顕性腎症期)に該当します。腎症の進行で第2期(早期腎症期)と第3期の境界をPoint of no returnと呼び、これを過ぎると腎症は元に戻らないと言われています。

尿試験紙より高感度の尿中アルブミン検査を行うことで、第2期までの段階で発見し、血糖コントロールや血圧管理などの適切な治療を早期に開始することが大切です。また、尿中アルブミンは近年の大規模な臨床疫学研究により、腎臓だけでなく心筋梗塞など心臓の血管の障害を反映する危険因子のひとつであることがわかっています。

腎症の早期発見、早期治療のためには、血液検査だけでなく、尿検査もとても重要なのです。

トピックス

看護週間イベント

5月12日は「看護の日」、5月12日を含む日曜日～土曜日は看護週間です。

「看護の日」「看護週間」は、看護の心・助け合いの心を育むきっかけとなるよう1990年に制定されました。今年は、5月11日～5月17日を看護週間とし、5月17日に「看護の心をみんなの心に～みんなで考えよう、生活習慣～」をテーマに、看護週間イベントを開催しました。

イベントでは、自身の健康管理について身近に考えていただく機会となるように、「身長・体重測定・BMI(肥満度)」や「正しい手洗い方法」「フットケア」等の体験に加えて、「骨密度測定」「血管年齢測定」を行いました。「骨密度測定」は、毎年楽しみにしているとの声も多く聞かれ、看護週間が広く市民の方に知られていることをうれしく思うと同時に、測定希望者全員のご希望に応えることが出来ず、申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。今年は新たに「血管年齢測定」を加え、こちらも多く参加をいただきました。参加された方々は、各々に測定結果について質問や感想を述べられ、日頃の健康への意識の高さが伺えました。

食品カロリー展示コーナーでは、ペットボトルに入った砂糖の量に驚かれ、「身近な飲み物として手に入る機会が多い子供たちにぜひ知ってほしい」との意見も聞かれ、子供たちも多く参加できるような取り組みについて考える機会となりました。

同時に市民健康教室「糖尿病を考える」を開催し多くの方の参加を頂きました。

看護週間「看護の心をみんなの心に」の取り組みが、市民の皆様の健康管理に役立てていただけたら幸いです。たくさんのご参加ありがとうございました。



病院職員紹介



リハビリテーション科
作業療法士
樋口 明日花

去年から、リハビリテーション科の先輩方とゴルフをはじめました。ゴルフクラブなど握ったこともなく、ルールもなにも知らないわたしなので、もっぱら打ち方の練習、ゴルフ練習場での練習です。

始める前は置いてあるボールを打つのがなんて“かんたん”だろう、と思っていましたが、やってみると意外…というよりすごく難しい。思いっきりスイングしてもボールは微動だにせず、あるいはよっ、と思ったらわたしの思いとは裏腹にボールはななめ方向に飛んで行ったり。練習の翌日には筋肉痛に悩まされたりもします。

そんな調子ですが、ごく稀にボールが思

うようにまっすぐ飛んでくれたときにはとても気持ちがいいものです。今年中のゴルフ場デビューを目指して…まずは硬いからだのストレッチから、がんばります。



地域連携医のご紹介

当院では、地域の医療機関と連携して、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み、地域医療の向上に貢献することを病院の基本理念として、患者さま中心の医療を展開しています。そこで、本院と関係の深い、地域の連携医療機関を順次紹介させていただきます。

石崎 医院

院 長：石崎 壽光

住 所：亀岡市古世町1丁目4-5
T E L：25-6045
標榜科目：内科、婦人科、美容皮膚科
診療時間：午前9:30～12:30、午後6:00～8:00
（土曜日は、5:00～7:00）
火・金曜日の午後および木、日祝日休診

院長より一言

亀岡市立病院の皆様には、いつもお世話になりありがとうございます。

公立南丹病院を退職し、産婦人科勤務しながら開業医として亀岡で暮らしてはや15年です。色々試行錯誤しながら、地域に根付いた医療を目指していますがまだまだです。

市立病院ができた当初、あまり交流できていなかったのですが、いまや特に放射線科でのMRI検査や乳がん検診後のフォローアップなど日常の診療になくはない存在になっています。本年より老健施設陽生苑の理事に就任し、そちらのほうでも入所者の入院治療でもお世話になっており、地域の老人医療でも市立病院の存在は益々大きくなっていることを感じています。

今後とも色々和无理をお願いすると思いますが地域医療のために頑張りたいと思いますので宜しくご指導ご協力をお願いします。



吉岡 整形外科 医院

院 長：吉岡 克己

住 所：亀岡市河原町192
T E L：25-4121
標榜科目：整形外科、リハビリテーション科、外科
診療時間：午前9:00～12:00、午後5:00～7:30
水・土曜日の午後および日祝日休診

院長より一言

故郷亀岡の地で整形外科診療所を開業して、早や25年が過ぎました。

34歳になったばかりで胃癌と診断され、京都第二赤十字病院で胃下垂全摘手術を受けました。術後、体重は16kgも減り中々体力も回復しないため、外来診療だけでなく何とかやっていけるだろうとの安易な考えで開業したのですが、早々より沢山の患者さんの支持をいただき、今では元気で忙しい日々を送っております。開業当初は地域の中核病院は公立南丹病院しかなく、全ての救急を受け取ってもらえるはずもなく、京都市西部地域の病院と連携を結び患者さんを紹介していましたが、亀岡市立病院が開設され、整形外科も同門の先生方が常勤されるようになり、安心して検査や手術をお願い出来るため、多くの患者さんに喜んでもらっています。この場をお借りして御礼申し上げます。

最近では、検死業務に関わるAI検査をお願いする事も多くなってきており、時間外でも対応していただき大変助かっております。今後も亀岡市立病院の先生、スタッフの方々の協力をいただきながら、よりよい医療を提供していきたいと思っております。



編集後記

爽やかな風が吹き、心地のよい季節となりました。皆さまはいかがお過ごしでしょうか？

私は先日、愛宕山へ登山をしてきました。久しぶりの登山道に苦戦し、体力の衰えを痛感しながらも、新緑の美しさや暖かな風には心なほされ、また、未だ肌寒さの残る山頂ではなんだか厳かな雰囲気を感じました。愛宕山には古くから防火・鎮火のご利益があるということで、家内安全とともに亀岡市立病院の安全を願ってきた次第です。

願うことも大切ですが亀岡市立病院では日々、患者様や来院者の方々の安全を守るべく精進しております。これまでもスタッフによる消防訓練の実施や、安全に関する委員会を定期的に開催するなど様々な角度から安全について考えてきました。これからも皆様に、安全で安心してご利用頂けるよう努めてまいりますので、今後とも宜しく願い申し上げます。

広報委員会事務局 谷 裕幸(病院総務課)

広報誌読者からのご意見等募集案内

本誌『桔梗』の表紙や挿絵に掲載させて頂く写真やイラストを募集させていただきます。テーマの規定はありません。みなさまより多数のご応募を心よりお待ちしております。採用、不採用に関わらず、写真やイラスト、画像データ等のご返却できませんのであらかじめご了承下さい。詳細につきましては、下記担当者までお問い合わせをお願い申し上げます。

【担当者】亀岡市立病院 病院総務課 谷 (平日、午前10時から午後3時まで)



JR馬堀駅から徒歩約5分/京都縦貫道篠インターから車で約5分/駐車(輪)場有

亀岡市立病院

〒621-8585 京都府亀岡市篠町篠野田1-1
TEL 0771-25-7313 FAX 0771-25-7312
<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/access/index.html>

「がんばろう日本」～亀岡市は東日本の復興を支援します～